



# What IS IT?

2026 Vol.102  
令和8年3月発行

ISIT:Institute of Systems, Information Technologies and Nanotechnologies

## ISIT 設立30周年記念 WEEK

令和7年度

ISITは、令和7年12月に設立30周年を迎えました。

これまでご支援・ご協力いただいた皆様への感謝と、今後のさらなる連携強化を目的として、令和7年11月11日から14日にかけて「ISIT 設立30周年記念 WEEK」を開催しました。

期間中は、ISITの各ラボがそれぞれの特色を活かしたイベントや講演会を実施し、研究や事業の取組みを紹介しました。

- ・11日:生成AIを用いたアイデア創出ワークショップが実施され、創造的なプロンプトの活用ノウハウが共有されました。参加者の満足度は85%に達し、高い評価を得ました。
- ・12日:週最多の125名が参加した「地域DXセミナー」では、OpenAI Japan 合同会社の久保和也氏他が登壇しました。中小企業向けのAI戦略や情報セキュリティ、現場での実践事例が紹介され、地域DXを加速させる共創の場となりました。
- ・13日:さらに多角的なプログラムが行われ、自治体職員がデータ連携基盤「BODIK CityOS」等を学ぶハンズオン、脱炭素社会を目指すサーキュラーエコノミーセミナー、オンラインでのピープルマネジメント実践術を実施しました。

最終日の14日は招待制の記念セミナーと交流会を開催しました。

ISITでは多くの皆様のご支援、ご協力を頂きながら、皆様にとって「頼りになるISIT」を合言葉に、研究開発、産学官連携、社会実装・社会実証、技術支援や社会啓発といった一連の活動を展開し「より地域にひらかれた研究所」としてさらに進化し続けてまいりたいと思います。今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



ワークショップの様子



地域DXセミナーの様子



ハンズオンの様子

ISITでは、地域企業や研究者との連携を深めるため、各地の展示会で分析支援や最新の研究プロジェクトを精力的にPRしました。

## ◆モノづくりフェア2025(令和7年10月15日～17日)

マリンメッセ福岡にて、ブース出展と専門セミナーを実施しました。セミナーでは「モノづくりでの分析・解析お任せ下さい!」と題し、研究開発における分析の基本と意義を解説するとともに、よろず相談「分析NEXT」をはじめとした地場企業の課題解決の支援体制を紹介しました。

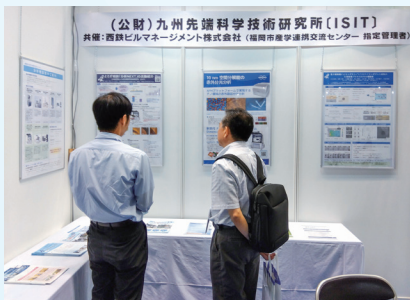
## ◆九州大学オープンイノベーションワークショップ(令和7年10月22日)

九州大学伊都キャンパスにてパネル展示を行いました。学内の教員や参加企業へISITの活動を周知したことで、展示をきっかけに福岡市内の企業が実際に「よろず相談」へ来訪するなど、具体的な産学連携の起点となりました。

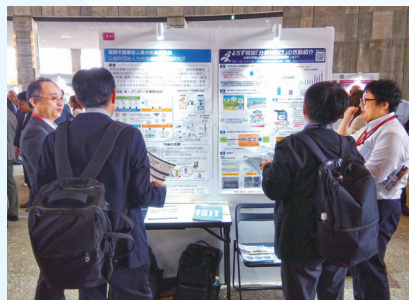
## ◆nano tech 2026(令和8年1月28日～30日)

東京ビッグサイトにて、九州大学学術研究都市ブースの一員として出展しました。ナノ材料・有機光デバイス両グループの活動紹介に加え、福岡市産学連携交流センターの分析機器室を紹介し、専門性の高いパネル展示により、多くの来場者から高い関心を集めました。

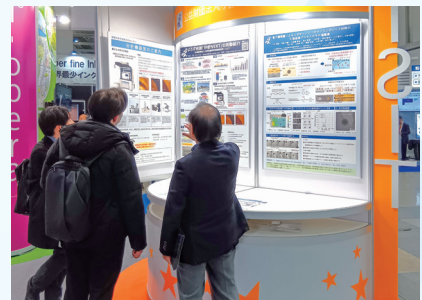
ISITは今後も、展示会等での発信を通じて、産学連携のきっかけとなる場づくりを推進していきます。



モノづくりフェア2025ブース出展



九州大学オープンイノベーションワークショップ  
パネル展示



nano tech2026パネル展示

# 第21回有機光エレクトロニクス産業化研究会

ISITは、福岡県、福岡市、福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかIST)とともに、地場産業の有機EL産業への参入を促すため、有機光エレクトロニクス産業化研究会を開催しています。今回は、モノづくりフェア2025内のセミナーとして「エレクトロニクスセンシングデバイスの技術動向と未来像」をテーマに実施しました。

本セミナーでは、東京大学准教授横田知之氏より、有機半導体を用いた超フレキシブルデバイスの作製プロセスや特性だけではなく、無機半導体では実現不可能な皮膚等のように微細な凹凸を有する生体へ密着したセンサーデバイスの実現など有機半導体デバイスが拓く将来技術についての紹介がありました。

また、ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社統括部長菅真紀子氏からは、電子デバイスの多くは、何を測りたいかという視点に立ったセンサーの信号処理が重要であること、生活に必要で高精度なセンサーが実現されていることなど、AI時代に入力した現在では、イメージセンサーが益々重要になってきている状況が解説されました。

当日は、119名が参加し、健康管理や自動運転、見守りなどへの展開が始まったセンサー技術に対する関心の高さが伺えました。



研究会の様子

# 日本工学アカデミー九州支部講演会の開催

令和7年度

11月21日、福岡市産学連携交流センター(FiaS)交流ホールで、ISIT 研究所長山田淳が支部長を務める公益社団法人日本工学アカデミー(EAJ)九州支部主催講演会をISIT共催で実施しました。

今回の講演会では、「工学の躍進—生物のしくみをエンジニアリング—」をテーマとして、以下の2名の講師よりご講演いただきました。当日は、37名が参加し活発な質疑応答もあり、盛況のうちに終わることができました。

## ◆ 講演1 光合成を模倣した光触媒膜によるソーラー水素製造

徳留弘優 氏(TOTO株式会社 総合研究所 先端マテリアル研究部 上席研究員、同志社大学 非常勤講師)

## ◆ 講演2 生物のように効率よくCO<sub>2</sub>を分離するシステムの実現を目指して

星野友 氏(九州大学大学院工学研究院 教授、株式会社JCCL 取締役 CTO)



開会挨拶 ISIT 研究所長 山田淳



講演会場の様子

# サーキュラーエコノミーセミナーの開催

令和7年度

ISITでは、よろず相談「分析NEXT」などを通じて、地域企業やスタートアップ等の製品開発における技術課題解決を支援しております。昨年度までは「福岡グリーンイノベーションチャレンジ事業」など脱炭素社会の実現に向けた取組みを実施しておりましたが、本年度は世界的な潮流となってきた「循環経済(サーキュラーエコノミー)」分野の支援を開始しています。

キックオフとなる本年度は、以下のセミナーを2回実施しました。第1回では入門編としてサーキュラーエコノミーの基本概念について、第2回では、付加価値の創出やバリューネットワークの構築について解説しました。

各セミナーでは、企業やアカデミアの最新の取組み事例の他、ISITのよろず相談「分析NEXT」による企業等支援の取組みについても紹介し、参加者からは「最新の動向や課題を知る貴重な機会となりました」と感想が寄せられました。今後は、セミナーで得られた知見や繋がりを活用して、同分野の支援を行っていきます。



講演会の様子

## サーキュラーエコノミーセミナー(全2回)

第1回 入門編 (ISIT30周年記念 WEEK内)	
日時: 令和7年11月13日(木) 会場: 福岡市産学連携交流センター・交流ホール	
基調講演	サーキュラーエコノミーの付加価値とバリューネットワーク 中村崇 氏(公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター センター長、 一般社団法人 循環経済協会 会長、東北大学 名誉教授)
企業事例	ジェマインR&Dの循環型生産システム事例 宮鍋征克 氏(株式会社ジェマインR&D 代表取締役)
アカデミア事例	シュレッター古紙×微生物で創る循環型培養土—トリコデルマ911による資源化と社会実装— 松元賢 氏(九州大学 熱帯農学研究中心 地水・環境保全部門 教授)
第2回 循環のバリューネットワークによる価値共創に向けて(九州大学エネルギーウィーク内)	
日時: 令和8年1月26日(月) 会場: アクロス福岡 大会議室 共催: 九州大学・福岡市	
基調講演	サーキュラーエコノミーの付加価値とバリューネットワーク 中村崇 氏(公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター センター長、 一般社団法人 循環経済協会 会長、東北大学 名誉教授)
企業事例	『世界中のものづくりの課題解決屋』として“協創”で臨むサーキュラーエコノミー 赤星直徳 氏(リックス株式会社 NB 開発本部 NB 開発部長)
アカデミア事例	ケミカルリサイクルで進める九州のプラスチック資源循環 永長久寛 氏(九州大学大学院 総合理工学研究院 物質科学部門 教授)

# よろず相談「分析NEXT」で利用されている 分析装置のご紹介(その1)

令和7年度

ISITでは、製品・材料等の分析・解析を通じた課題解決支援事業・よろず相談「分析NEXT」の相談窓口を開設しています。

今回は課題解決で活用されている集束イオンビーム加工観察装置(FIB-SEM)を紹介します。

私たちの身の回りには電池や半導体、金属材料や医療デバイスなど多くの製品の性能や安全性は、実は人の目では見えないナノメートル(100万分の1ミリ)の構造に左右されています。FIB-SEMはそんな超微細な世界を観察できる最先端の装置です。特に「イオンのビーム」で材料を少しずつ削り、「電子のビーム」で高倍率を観察しながら内部の構造を立体的に調べることも可能です。FIB-SEMは研究開発から産業分野までモノづくりを支える見えない部分の解明に役立っており、地場企業の技術開発支援や次世代材料の研究・開発に大いに活用されています。

FIB-SEMは福岡市産学連携交流センターに設置されております。製品開発でお困りのことがありましたら、まずはお気軽にご相談ください。



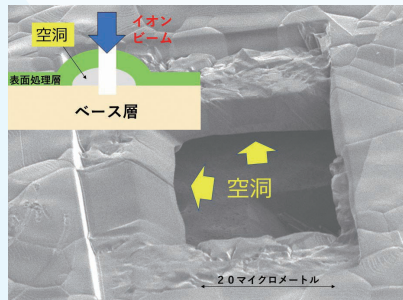
よろず相談「分析NEXT」のご案内

問い合わせ先

E-mail:bunseki@next-soudan.com 電話:092-805-3810



FIB-SEM装置と観察の様子



FIB-SEMでの測定画像と模式図  
※表面処理層中に空洞を発見

### 分野

- ・製造(材料系)・製造(食品系)
- ・農林水産・卸・小売・環境 など

### 活用方法

- ・製品トラブルの原因解析
- ・販売・取扱製品の品質確認
- ・金属や樹脂の劣化・破損原因の調査
- ・新素材・ナノ材料の開発中製品の観察
- ・電池や半導体の断面観察
- ・微細加工や試料作製

活用可能な分野例と活用方法

# 九州大学で学ぶ水素エネルギー 「子どもサイエンス教室」

令和7年度

次世代を担う子どもたちにグリーンイノベーションなどの水素エネルギーへの理解を深める目的として、10月4日に九州大学、福岡市とISITの三者共催による九州大学で学ぶ水素エネルギー「子どもサイエンス教室」を開催しました。

今年度で3回目となる本イベントには小学4年生から6年生の児童と、その保護者の計70名が参加し、子どもたちの知的好奇心を最大限に引き出すため、講義・実験・見学・体験という4つの要素を組み合わせたプログラムで実施し、その科学知識を具体的な体験と結び付けアプローチすることで学びの効果を大きく高めました。

アンケートでは「親子で学ぶことで地球温暖化や脱炭素社会の重要性について具体的なイメージをもって理解を深めることができた」という意見が多く寄せられました。

ISITでは最先端科学技術への理解と関心を深めるイベントを今後も実施していきます。



ミニ講義の様子  
九州大学 准教授 立川雄也 氏



水の電気分解と燃料電池による発電実験



水素社会ショールーム見学



水素で走る燃料電池バス「Moving e」  
乗車体験

# エンジニアフレンドリーシティ福岡 (EFC) アワード 表彰イベントを開催

令和7年度

EFCの活動の推進と、エンジニアを取り巻く環境の向上を目的としたEFCアワードの2025年受賞者が決定し、表彰イベントEFC AWARD 2025を、12月5日にエンジニアカフェにて開催しました。

今回で7回目となるEFCアワードでは、エンジニアコミュニティ文化の発展に貢献するコミュニティ3団体、エンジニアが働きやすい環境作りや、成長・交流促進につながる取組みなど、エンジニアを取り巻く環境の充実に取組む企業2社と開発を通して成長し、優れたプロダクトを生み出した4チームを表彰しました。

また、ハッカソンコンテストEngineer Driven Day (EDD)の協賛企業が独自の視点で選定した6チームがEDD企業賞を、1チームがEDD特別賞を受賞しました。

表彰イベント当日は、表彰式をはじめ、受賞者プレゼン(LT:ライトニングトーク)、まち×デジプロジェクトの紹介及び参加者LT、交流会などが行われ、コミュニティ、企業、学生など、登壇者から一般参加者まで、幅広い世代の多様な方々が交流を深めました。

## 【プロダクト開発部門】受賞4チームのプロダクト紹介



チーム名:AIEL  
作品名:Nois



チーム名:SelfPomodoro  
作品名:SelfPomodoro



チーム名:チームTANAKA  
作品名:たねずけさんAI × 家庭菜園:  
種まき初心者をつさげるスマホ  
アプリ



チーム名:ANSLIN(アンシリン)  
作品名:ANSLIN(アンシリン)



主催者代表挨拶 福岡市長 高島宗一郎 氏



EFCアワード受賞者



EDD2025  
応募プロダクト一覧

# EDDアルムナイ(振り返りLT大会)を開催

令和7年度

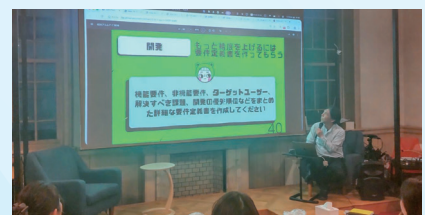
EDD2025の締めくくりとして、参加者同士の振り返りと交流を目的とした「EDDアルムナイ」を開催しました。当日は、EDD参加者による開発体験や自身の成長などを共有するLTに加え、フルスタックAIの技術紹介や生成AIドリルの振り返りも行われ、多様な視点に触れながら、学びを深めました。イベントの最後にはプレゼント抽選会も実施され、パーカーやTシャツなどの賞品が当たるなど、和やかな雰囲気の中でEDDの歩みを振り返りながら、次のステップへと気持ちをつなぐ機会となりました。



EDD参加者によるLT



フルスタックAIの技術紹介



生成AIドリルの振り返り

## 地域企業協働プログラム — 現場とともに進むDXの実践 —

令和7年度

ISITでは、地域企業と全国のDX人材・学生が協働し、実際の業務課題やDX推進に取り組む「地域企業協働プログラム」を、令和7年度より本格的にスタートしました。本プログラムは、受講生同士でチームを組み、3ヶ月にわたって地域企業の経営者やDX推進担当者とともに課題解決に取り組む実践型の人材育成プログラムです。

プログラムが進む中で、企業側からは「これまで漠然としていた課題が言語化された」「外部の視点が入ることで、当たり前だと思っていた業務を見直すきっかけになった」といった声が聞かれるようになりました。一方、参加者にとっても、実際の業務や組織の中でDXを考える経験は大きな学びとなっており、机上の知識だけでは得られない“現場感覚”を着実に身につけています。ツール導入の検討や業務フローの整理、小規模なAI活用の検証(PoC)など、具体的なアクションも少しずつ形になりつつあります。

本プログラムの特徴は、「教える・教えられる」という一方の関係ではなく、企業と参加者が同じ目線で考え、試行錯誤を重ねる協働関係にあります。企業は新たな視点や柔軟な発想を得ることができ、参加者は実践を通じて課題発見力や提案力を磨く、そうした相互作用が、現場に前向きな変化を生み始めています。

令和8年1月末にプログラムは終了し、2月には成果発表会をGROWTH1で開催しました。全9チームが3ヶ月間の取組成果を発表し、会場・オンライン双方から多くの質問が寄せられるなど、大変活気のある会となりました。

ISITでは今後も、DXを推進したい企業とDXを学びたい参加者の双方に寄り添いながら、実践と学びが循環する協働の場づくりを進めていきます。本プログラムにご興味のある方は、ぜひISITまでお気軽にご連絡ください。



オンラインで会議をする様子



受入企業に訪問して打ち合わせ



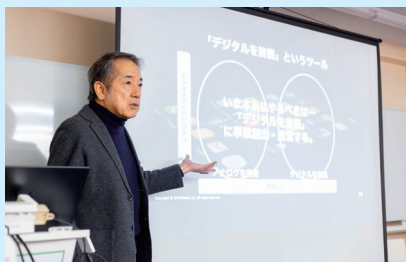
受入企業の工場に見学

## 福岡DX、One Kyushu DX コミュニティの 取組み紹介(新年交流会など)

令和7年度

福岡DXコミュニティとOne Kyushu DXによる、DX新年交流会を1月14日に開催し、46名が参加しました。福岡DXコミュニティ会長村上和彰氏より、「2026年新春お年玉!!! デジタル・生成AI時代の事業創出・経営のための(いま考え得る)最強のツール、差し上げます!!!」をテーマに生成AIの動向や、DX、市場の変化を踏まえ、今後1年どのように取組んでいけばよいのかや、エコシステムの重要性等について講演が行われました。

また、今年度取組んでいる「地域企業協働プログラム」の中間報告として、プログラム参加企業2社の取組状況の紹介をしました。福岡DXコミュニティでは、1月末現在で勉強会や交流会を約40回開催し、延べ1,600名が参加しています。



福岡DXコミュニティ 会長 村上和彰氏



セミナーの様子



交流会の様子

## まちの課題を学生が解決する 「まちデジプロジェクト」成果発表会の実施

令和7年度

ISITでは7月から12月にかけて、マーケティングやノーコード開発を学びながら、実際に商店街を舞台にプロジェクトを企画・実行する「まちデジプロジェクト」を実施しました。参加した学生23人は、初対面ながらチームを組み、社会人メンターの支援を受けながら企画・開発に取り組みました。

プロジェクトの鍵となったのは、商店街でのフィールドワークです。現場でアイデアを検証し、利用者の反応を直接得ることで、机上の空論ではない「現場視点」の提案へとブラッシュアップしました。

集大成となる12月の成果発表会では、福岡市や商店街、IT企業などの関係者が参加し学生ならではの柔軟な発想と、現場で磨き上げたアプリ案や企画が高い評価を受けました。ISITは今後も、若者の感性と現場を繋ぐデジタル支援を推進していきます。



成果発表会の集合写真



商店街フィールドワークの様子

## BODIKエディタを開発

令和7年度

BODIKは、自治体のオープンデータ業務を支援する編集アプリ「BODIKエディタ」を公開しました。

表計算ソフトで起こりがちな「日付や数値の自動変換」や「文字化け」といったストレスを解消し、データの整合性を保ったままスムーズな公開作業をサポートします。

### ◆ BODIKエディタの主な特徴

**インストール不要:** Webブラウザから簡単に操作可能。

**強力な機能:** 住所正規化やジオコーダーなど、専門的な変換機能を搭載。

**Excel対応:** Excelファイルを読み込み、文字化けしないCSV(UTF-8 BOM付)として保存。

**作業の自動化:** スクリプト機能により、定型的な編集処理を自動実行。

オープンデータの作成・加工にお困りの際は、ぜひご活用ください。

URL: <https://utility.bodik.jp/bodikeditor>

## 九経連インターンシップの受け入れ

令和7年度

オープンイノベーション・ラボ(OIL)では、8月からの2ヶ月間に2名の大学院生をインターンシップ生として受け入れました。

大分大学 理工学研究科博士前期課程 理工学専攻の大学院生は、「サイバーセキュリティとWebページ」をテーマに、実際に稼働するサーバーのログ分析や分析ツールの作成に取り組みました。プロジェクト管理やDocker、AI開発など幅広い技術を実践的に学び、セキュリティ分野への理解を深めました。

また、福岡大学大学院 工学研究科 電子情報工学専攻の大学院生は、「AI会議アシスタント開発」をテーマに、AIを活用したアプリケーション開発に挑戦しました。技術的なトラブルにも柔軟に対応し、チーム内での相談や協働を通じて、実践的な開発経験を積みました。

両名ともに、OILのチームメンバーの指導のもと、技術力だけでなくコミュニケーション力や課題解決力を高め、充実したインターンシップを完走しました。

## 賛助会員 募集

ISITでは、賛助会員の募集を行っています。

- 会員特典 1 ISIT主催のセミナー・交流会のご案内
- 会員特典 2 よろず相談分析NEXTのコンサルティング料金を割引
- 会員特典 3 ISITウェブサイトで会員紹介(リンク等)
- 会員特典 4 活動報告書、活動レポートの送付等

お申込み・問い合わせ先 E-mail: [isit-soumu@isit.or.jp](mailto:isit-soumu@isit.or.jp) または 総務部まで

## 新規賛助会員のご紹介

- 株式会社バリバリ  
地元である福岡から、九州地域の産業の振興と経済社会の発展に寄与したく、バリバリ頑張ります。
- 日本曹達株式会社  
百年史の技術で素材・農業・ヘルスケアに貢献、新たな未来を切り拓く開発ラボを設立しました。

## メールマガジン 募集

ISITでは、市民講演会や各種セミナーの情報などを発行しております。メールマガジンのお申し込みは下記URLをご覧ください。

詳細はこちら <https://www.isit.or.jp/publication/mailmagazine/>

メルマガ登録フォーム

<https://17auto.biz/isit/registp/entryform2.htm>

メルマガ  
登録フォーム



## 公益財団法人 九州先端科学技術研究所 (ISIT)

### ■ 事務局(総務部/事業調整部)

総務部 TEL:092-852-3450  
事業調整部 TEL:092-852-3460  
FAX:092-852-3455

### ■ オープンイノベーション・ラボ(OIL)

社会に貢献する最先端IT技術を活用した社会実装、社会実証を産学官連携で推進しています。  
TEL:092-852-3453

〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1番22号  
福岡SRPセンタービル5階  
URL: <https://www.isit.or.jp>

### ■ マテリアルズ・オープン・ラボ(MOL)

#### ● ナノ材料グループ/事業推進室

金属ナノ材料より構成される光機能素子の創製に向けた基盤技術の開発、ならびによろず相談分析NEXT事業等を行っています。  
TEL:092-805-3810  
FAX:092-805-3814

#### ● 有機光デバイスグループ

次世代有機半導体光デバイスの創製に向けた革新的な共通基盤技術の開発を行っています。  
TEL:092-807-4511  
FAX:092-807-4511

〒819-0388 福岡市西区九大新町4-1  
福岡市産学連携交流センター(FiaS)内

## 賛助会員入会のご案内

当財団の事業目的に賛同して頂ける方  
(企業/団体/個人等)の賛助会員入会を募集中



### 主な特典

1. ISIT主催のセミナー・交流会を優先的にご案内
2. 分析・解析よろず相談事業(分析NEXT)のコンサルティング料の減免
3. ホームページで会員紹介(リンク等)
4. その他活動報告書や活動レポートの送付

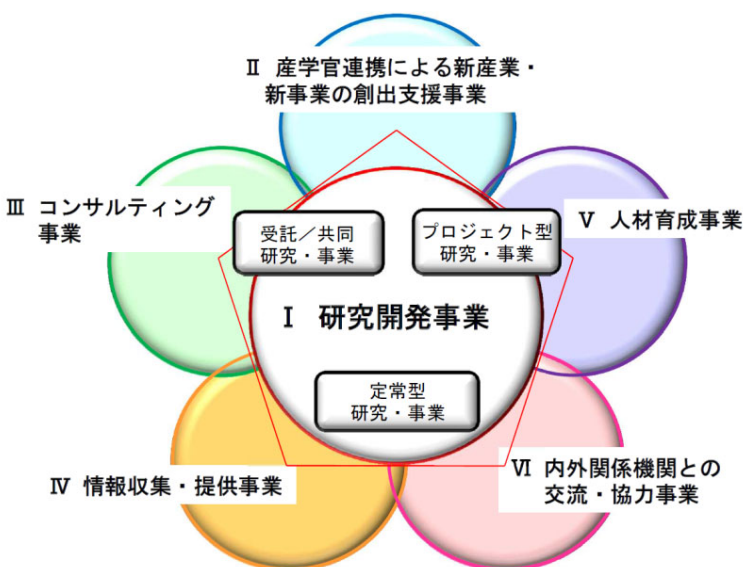


当財団は、システム情報技術、ナノテクノロジーなどの先端科学技術分野において、九州地域における共創の場を提供し、社会実装や社会実証、産業界のニーズと大学等研究機関等のシーズをつなぐ開発研究を産学官連携の下で推進するなど、産業の振興と経済社会の発展に資する様々な活動・事業(公益目的事業)を行っています。

### 産学官連携プロジェクト (R6.4現在)

- 福岡DXコミュニティ (fdx.community)
- One Kyushu DX (OKDX)
- ビッグデータ&オープンデータ・イニシアティブ九州 (BODIK事業)
- SRPオープンイノベーションラボ
- 分析・解析よろず相談事業(分析NEXT)
- ふくおか産学共創コンソーシアム
- エンジニアフレンドリーシティ福岡(EFC) など

詳細：<https://www.isit.or.jp/project/>



### 【入会申込・お問合せ窓口】

当研究所 総務部 Tel : 092-852-3450 Fax : 092-852-3455

E-mail : isit-soumu[at]isit.or.jp ※ [at]=@

〒814-0001 福岡市早良区百道浜2丁目1番22号 福岡SRPセンタービル5階

